## 黙想:待降節第1土曜 日

黙想のテーマ:「イエスは私 たちに会いに来る」「働き手 を送ってくれるよう、収穫の 主に願う」「自己の使命を刷 新する|

イエスは私たちに会いに来る

働き手を送ってくれるよう、収穫の 主に願う

自己の使命を刷新する

今日の福音書では、人々に出会うた めに出かけるイエスの姿が描かれて います。「イエスは町や村を残らず 回って、会堂で教え、御国の福音を 宣べ伝え、ありとあらゆる病気や患 いをいやされた | (マタイ9・35)。 イエスの個々の人に対する配慮と関 心は、言葉だけではありません。 イ エスは困っている人に近づこうと努 め、イニシアティブ取り、行動しま す。 神の愛について話すことにより 希望を与え、彼らの困難に熱心に耳 を傾け、必要ならばそれを解決しま す。イエスが自分に近づいてくる 人々を優しい眼差しで見つめる姿を 私たちは想像できます。 イエスは 「また、群衆が飼い主のいない羊の ように弱り果て、打ちひしがれてい るのを見て、深く憐れまれた」(マ タイ9・36) 、

同様に今日も、主は私たちの世界に 来ます。主はいつも私たちと共にい ます。 イエスは近くにおられる神で lesus Christus heri et hodie: ipse et in sæcula!「イエス・キリストは、 きのうも今日も、また永遠に変わる ことのない方です」(ヘブライ13・ 8)。主は様々な形で私たちに出会 いに来ます。主は私たちの霊魂を聖 体のパンで養い、彼の言葉で平和と 希望を伝え、祈りの静寂の中で私た ちに従う道を教えてくださいます。 「まことに、シオンの民、エルサレ ムに住む者よ、もはや泣くことはな い。主はあなたの呼ぶ声に答えて必 ず恵みを与えられる。主がそれを聞

いて、直ちに答えてくださる」(イザヤ書30·19)。 イエスは、私たちが頼まなくても私たちを探しにいても、私たちの主に対する感謝は、本ででしょうし、対けに対するがあるが、でしょうがでしたがあるがでしたがでした。 いずれにせよ、私たちにはがいる感謝してより敏感に応答したいかけに対してより敏感に応答したいと望みます。

福音書にはイエスが人々の間にいる 様子が描かれています。 イエスは毎 日を最大限に活用し、時には食事の 時間さえもありません(マルコ6・31 参照)。沢山の人々の必要に対応す るための時間が足りませんでした。 このような状況に直面して、マタイ は主の心の思いを一番近くにいる弟

子に伝えています。「収穫は多い が、働き手が少ない」(マタイ9・ 37)。助けを必要としている人々が 沢山にます。しかしその急務に取り 組む人が少ないのです。 世界は神を 必要としています。 イエスは他の誰 よりもよくそれを知っています。 「ところで、信じたことのない方 を、どうして呼び求められよう。聞 いたことのない方を、どうして信じ られよう。また、宣べ伝える人がな ければ、どうして聞くことができよ う。遣わされないで、どうして宣べ 伝えることができよう| (ローマ 10・14-15)。 このような世界の必 要に対して、喜びと平和の福音を告 げ、救いのメッセージを伝える人は

イエスの心の底から生まれる祈りが、弟子たちに向けられます。「だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」(マタイ9・38)。私たちが、

常に不足しています。

続けて今日の福音書を黙想しましょう。主が弟子たちにこの願いを託した直後、主は彼らを呼び、彼らに人々の必要に対処するために必要な力を授けました。「行って、『天の国は近づいた』と宣べ伝えなさい。病人をいやし、死者を生き返らせ、

重い皮膚病を患っている人を清くし、悪霊を追い払いなさい。ただで受けたのだから、ただで与えなさい」(マタイ10・7-8)。主は弟子たちに、働き手を送るよう収穫の主に願うよう求めると同時に、この喫緊の使命を弟子たちが遂行するよう求めます。

私たちが召命を願うと、主は同時に 私たち自身の使徒としての使命を刷 新してくれます。 聖ホセマリアは指 摘します。「世界中のあらゆるとこ ろで贖いが実現するだろうこと、そ して、キリストと共に贖いの実現に 貢献する人々が、それが誰であるか は定かではないけれども居るはずで あること、これを確信しているキリ スト者は多い。しかし、その人たち は贖いを数世紀、あるいは何十世紀 もの未来に実現するものと考えてい る。彼らのような献身の程度をもっ てしては、永遠に実現されないだろ うに。あなたも〈目を覚ましてもら

う〉までは、同じように考えてい た | ™。

私たちが主に、沢山の収穫のために 働く人を送るようにと誠実に祈るこ とは、私たち自身の聖性と忠実にも 影響を及ぼします。沢山のキリスト 者の心が、福音を伝える喜びで燃え 上がるよう、神に祈ることは、私た ちの心を燃え上がらせます。 聖母マ リアは天使のお告げを受けた時、神 の言葉が彼女の人生において成就す るための完全な用意があることを表 明しました。聖母に私たちが、そし て多くの人が、神の言葉を前にし て、彼女と同じような態度を取るこ とができるよう助けを求めましょ う。

[1] 聖ホセマリア、『拓』、1。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-taikousetsu-daiichi-doyou/(2025/12/16)